

平成 25 年度第 3 回大阪府立泉北高等学校学校協議会

1 日時：平成 26 年 3 月 4 日（金）15：45～17:00

2 会場：本校会議室

3 出席者 <委員>

加藤 正彦氏（泉北高等学校元校長）、伊藤 智博氏（大阪府立大学 教授）、奥井 博之氏（堺市立若松台中学校 校長）、清水 隆史（堺市立若松台小学校 校長）、大坪 登志美氏（泉北高等学校 PTA 会長）、長谷 和子氏（泉北高等学校後援会 会長）

4 挨拶 校長

- ・SSH では、海外連携及び地域連携を重点的に行い、台湾やオーストラリアでの海外研修を実施し、来年度もさらに発展させていきたい。
- ・EFHS 事業は今年度で終わりということになるが、府立高校がスーパーイングリッシュティーチャーによる TOEFL iBT 指導を導入することになり、本校にも配置予定である。
- ・今年度から募集が始まったスーパーグローバルハイスクールに申請を行い、現在第一次予選結果を待っているところであるが、SSH との両輪として指定されることを期待している。

5 事務局からの報告

①分掌、学年、教科の今年度の目標達成状況について（教頭より）

- ・アンケートでは広報に対する評価が大きく伸びることはなかったが、学校説明会への参加者数が大きく伸びており、精力的に広報活動を行ってきた成果と思われる。
- ・英語の各種資格試験の結果の伸びが大きくみられない。
- ・平成 26 年度の目標設定について、授業改善は現在 80% から 85% に、TOEFL ITP を 500 点以上 20 名以上とし、上位層の引き上げを目指したい。また、科学では外部のコンテストに積極的に参加し、入賞数の上昇をめざす。また、進路実績では国公立の合格者 30 名以上をめざしたい。1330 名の学校説明会への参加者を得ることができたが、1500 名をめざし、本校の教育内容をより理解して入学する生徒の増加をめざす。
- ・特別活動において部活動の入部率を現在から 5% アップ及び生徒指導において、特に遅刻数の減少をめざして取り組みたい。

②学校自己診断アンケート（生徒・保護者・教職員）結果について（教頭より）

- ・泉北高校に進学してよかった生徒（昨年比 5% アップ）及び進学させてよかった保護者（昨年比 2% アップ）のパーセンテージが府下の平均から考えても非常に高い数値となっている。生徒（昨年比 4% アップ）や保護者（昨年比 4% アップ）による楽しい学校生活を送っているかという項目でも昨年と比べても評価が高くなっており、総合的な評価と合わせて非常に高い評価となった。
- ・特色のある教育についてはほぼ横ばいであり、改善の余地はみられるが、一昨年度と昨年度を比較すると 10% 近く上昇していることから総じて評価されていると考えている。

- ・家庭学習について、保護者(昨年比6%アップ)からも増加しているという評価が若干高くなり、生徒が自学自習をする習慣(昨年比7%アップ)については改善されていると考えられる。しかし、教職員のアンケートからはまだまだ改善の余地があると考えられる。
- ・教員の生徒指導についても、生徒の評価が上がっている。教職員の一人一人によりそった教育活動が生徒に感じてもらえているようだ。
- ・進路指導については横ばいであるが、一昨年度と比較すると高まっていることは取れる。
- ・生徒の特別活動について、文武両道の方針と合わせて生徒及び保護者から評価をいただいた。
- ・広報については、昨年度大きく評価が高まっていた(一昨年比10%アップ)が、今年度は横ばいとなっている。
- ・PTA活動が活発になってきており、その様子から高評価を得ることになった。
- ・評価が低下している項目は、本校の施設設備や防災に関することである。世の中の関心の高まりから注目されているという状況もあるが、本校としてももっと周知徹底など広報活動をしなければならないと考える。
- ・人権教育等の評価も大変高くなっている。

③第2回授業アンケート結果について(教頭より)

- ・今年度から府立高校が統一した項目でアンケートを実施している。1学期末と2学期末を比較し分析したところ、ほぼ全ての項目で第2回の方がよい評価となった。特に、授業を改善する意思があるという項目で生徒の評価が高くなり、教員の授業改善に対する意識の変化と連動していると考えている。また、昨年と比較して、生徒の授業に対する予習及び復習の姿勢も評価が上がっている。興味関心や知識技能が身に付いたという項目でも、昨年と比較して評価が高まっており、授業改善につながっていると考えている。

④投書

- ・保護者から、意見書による「意見の申し出」が1通あった。大阪府立高等学校等の管理運営に関する規則第三十六条9項の規定により、事務局が会長の加藤先生に報告し、その判断を依頼した。その結果、加藤先生の中から、学校で取り扱うべき内容であるとのことをご指示をいただき、対処をさせていただいた。
- ・内容は、保護者から『子供の髪型が丸刈りになったこと』に対しての説明を求めるものであった。教員、生徒及び保護者から状況の聞き取りを行い、結果として、その間の意思疎通の不足が問題の原因であると判断をし、今後も丁寧な情報の共有をすることの確認をした。
- ・また、学校において、指導としてこのような行為が行われることが絶対に無いよう、再確認をする。
- ・以上の結果を会長の加藤先生に報告し、了承をいただいた。

6 協議

(委員) 災害時の備蓄についてはどうなっているか。

→(学校) 本校は避難場所に指定されていないので、食料の備蓄対象にはなっていない。

(委員) ペットボトルの水等を各家庭からボランティアで提供してもらって空き教室等で備蓄しておくのはどうでしょうか。

(委員) 他校の状況はどうでしょうか。

(委員) 小学校では備蓄はない。

(委員) 子供たちが学校にいる間に災害にあってしまった時に備蓄がないと不安である。

(委員) 堺市の指導の下、堺市の小学校では避難所開設の義務があるため、倉庫にアルファ米と水が大阪府より配布され備蓄されている。先日避難訓練の際に、それらの食料に消費期限が来たため、生徒たちと食べた。しかし、これらの食料は学校の生徒のためではなく、地域のための備蓄となっている。

(委員) 高校での取組はどうか。

→ (学校) 津波の恐れのない立地条件で、本校が避難場所になることは想定していない。しかし、必要に応じて国土交通省等の認可を受けることは可能と思われる。

(委員) 堺区や西区の学校では津波対策の設備があり、食材を備蓄している学校がある。PTA 会費で購入している。

(委員) 災害時のために学校に装備や備蓄があれば、保護者として安心であるので、検討してほしい。

→ (学校) PTA活動の一環として防災PRなどを取り入れることはできるだろう。

(委員) 設備について耐震は大丈夫か。

→ (学校) 耐震設備は改修済み。

(委員) 食料を備蓄できる場所はあるか。

→ (学校) 800名に対応できる食料となるとそれを全て備蓄できる場所は現在ない。

①平成25年度学校経営計画に対する自己診断結果と分析

(委員) 昨年11月にサイエンス部の生徒が来校。科学教育の興味関心を高める取組みの一環で、大変好評であった。12月に梅文化会館で行われた科学教室も盛況だったと聞いている。これらの泉北高校の地域での活動がスーパーサイエンスハイスクールのよい取組みとなっている。もし継続するのであれば、小学校の校長会に事前に連絡を入れてくれればより周知徹底できる。

→ (学校) 堺市が主催された市民向け講座にも参加するなど、徐々に地域向けの講座を増やし広げていくことで小学生のみなさんの興味関心が高められるようにしていきたい。12月の梅文化会館で講師を務めたのは「科学探究基礎」を履修している特に科学に関心が高い1年生で、参加した本校の生徒にとってもよい刺激となりました。朝日新聞やNHKからも取材依頼があり、本校の取組みを取り上げていただき、広まっているように思う。

(委員) この学校説明会への参加者1500名という目標はとてつもなく高い目標でしょうか。

→ (学校) 280名しか入学できないことを考えれば、とても高い目標であると思われる。本校への入学を強く希望する中学生も多く、何度も学校説明会に来てくれたケースも顕著だった。このことから、推薦入試も行うことも選択肢かもしれないと校内で話題になっている。

(委員) 開かれた学校作りのために、広報活動は盛んになっておりますか。

→ (学校) ブログだけでも3種類あり、中学校訪問や塾訪問、小中学生向けの科学講座も

積極的に行っている。特に、教員が行うものよりも生徒が行うものに高い評価を得ている。両科の入試倍率も1.7倍で、国際文化科では、ここ数年では最も高いものとなった。

(委員) メディアなどを通してより一層泉北高校の取組みが広く知られるような努力をこれからも続けてほしい。

→ (学校) クラブ活動を通じた取組みや本校生が卒業校を訪れるアンバサダーといった新たな取組みも評価をいただいております、地道な取組みも引き続き取り組んでいきたい。

(委員) 遅刻の数を減らすことは難しいでしょうか。

→ (学校) 通学途中のアクシデントや通院という数値も含まれているが、生徒たちの意識を少し変えれば減少できると思う。今年度は約2000となる見込みである。他校と比べると少ないと思うが、スマートフォンの多用や夜更かしなどの生活習慣の乱れを改善できれば、2000を下回ることができると思う。

(委員) 自転車通学の生徒で泉北1号線の路側帯を逆走する生徒を見かけるが、事故等はないのですか。

→ (学校) 大きな事故には結びついていないが、小さな事故は毎年何件か起きている。自転車通学のマナー指導については、なかなか行き届いていない状況である。今後の課題として指導を徹底していきたい。

(委員) 自分が事故の被害者になったときにどうしたらよいか知らない生徒も多いと思うので、そのときの対応を教えてください。

→ (学校) 警察からもすぐに110番するように指導されているので、生徒にもそのように伝え指導するように心がけている。

②平成26年度学校経営計画に対する提言

(委員) 海外からの留学生を各クラス1名など、もっと多くの生徒を受け入れてほしい。それは無理か。

→ (学校) 申し出があれば、学校交流や交換留学も断らないという方針で行っている。本校の近隣でホームステイをしていなければ、本校に申し出がないという条件面で限定されることがある。私立のように優遇措置などで戦略的に増やすということが難しい。

(委員) 国公立の進学者増加の数値についてはどうか。

→ (学校) 国公立志望者が多いので、入学して早くから国公立を受験する準備を始めていけるように指導する予定だ。

(委員) 海外の大学への実績はあるか。

→ (学校) 昨年度は1名海外の大学へ進学したが、珍しいケースである。海外留学説明会を行い20名ほど出席者があったが、それが海外進学にはつながることはなかった。大学に入学してから、中長期で海外の大学へ留学している生徒が多くいる。

(委員) 入学当初から海外進学にかかる費用などを案内してもらえれば、保護者としても一つの選択

肢として考えやすい。

→（学校）情報提供として実施したい。

【協議会まとめと提言】

- ・防災活動についての意識を高めるためにPTAとタイアップした取組を検討する。
- ・活気と規律ある学校生活について、遅刻の減少に取り組む。また、自転車通学のマナーアップの指導方法を検討する。
- ・国際理解教育について、留学生の受け入れ等、さらなる国際交流の推進を行う。また、海外大学への進学資料等を作成し、配布をすることでPRを実施し、推奨する。